



## 根室港を振り返る

アイヌ民族と和人の戦いである「クナシリ・メナシ

の戦い」以降、根室の中心地はノッカマップから根室港に移りました。1792年には、

ラクスマン一行が漂流民大黒

屋光太夫らを伴い、漂流民の返還と通商を求めて来航しま

した。根室港でスケートをする

様子が日本で初めて記録される

など、その時のロシア人の様子は列島に衝撃を与えました。

明治時代になると、北方警備や千島列島への拠点として根室港の重要性が一気に

高まります。町の発展に伴い、



起工当時の根室港



根室港に着水するシリウス号

人口の増加や函館との定期便の就航による船の出入りが増加したため、港湾整備が急がれました。明治6年には納沙布岬灯台とともに弁天島にも灯台が造られ、北海道で初めての灯台となりました。

根室町民による請願運動が

実り、根室港が明治43年に

関税法上に基づく開港指定を受けました。開港指定から

12年後に起工され、町はおお

いに祝賀ムードに湧きました。太平洋航空路開拓のため、

昭和6年8月にアメリカ人飛行士チャールズ・リンドバークがアン夫人とともに「水上飛行艇シリウス号」に

乗り、根室港に着水しました。

2日間ほどの滞在でしたが、当時の根室町民は熱烈に歓迎し、ビッグニュースとして全国に伝えられました。

昭和20年7月14日と15日の

両日、根室市街地はアメリカの空襲を受け、根室の町並みは壊滅的被害を受けまし

た。根室港内にあった軍需物資や貨客船も標的になり、弁天島灯台も破壊されるなど、港湾施設は甚大な被害を受けました。

シニアに北方領土が不法占拠されて以降、北洋漁業

が全面禁止となり、太平洋の

遠洋漁業や沿岸漁業へ転換が図られ、花咲港の港湾整備が急務となりました。昭和20年代後半から昭和30年代にかけて、港はサケ・マス、カニ船

であふれ、日魯花咲工場などの加工施設が軒を連ね、大き

なにぎわいを見せました。

### 根室港区の歩み

- 明治43年 北海道最東端の要港として関税法に基づく開港に指定される。
- 大正9年 第1期拓殖計画により、港湾修築工事に着手する。
- 昭和6年 リンドバークが水上飛行艇「シリウス号」で根室港に着水。
- 昭和14年 輸出額が15,881,000円と開港以来最高額となる。
- 昭和27年 出入国管理令に基づく出入国港湾の指定を受ける。
- 昭和28年 根室市が「地方港湾根室港」「地方港湾花咲港」の指定を受け、管理者となる。
- 昭和36年 根室、花咲両港が港湾隣接地域の指定を受ける。
- 昭和39年 海岸保全地区、根室都市計画臨港地区の指定を受ける。
- 昭和48年 根室半島沖地震で甚大な被害を受ける。(被害総額約18億円)
- 昭和52年 根室地方港湾審議会が設置される。
- 昭和53年 重要港湾根室港整備促進本部設置。地方港湾根室港、花咲港を根室港として一体化し、「根室港区」「花咲港区」と呼称する。重要港湾として指定される。
- 昭和59年 重要港湾根室港の本格着工に伴う修祓式が花咲岬で行われる。
- 昭和62年 関税法に基づく開港を、根室港区から花咲港区に指定変更する。
- 平成6年 北海道東方沖地震で甚大な被害を受ける。
- 平成14年 水深5.5m岸壁(耐震)工事が完了する。
- 平成15年 北海道十勝沖地震で甚大な被害を受ける。

### 花咲港区の歩み

- 昭和13年 第2期拓殖計画により根室港の副港として船入潤仮設工事が開始される。
- 昭和48年 根室半島沖地震で甚大な被害を受ける。(高さ280cmの津波を観測)
- 昭和51年 花咲港重要港湾指定期成会発足。
- 昭和53年 重要港湾根室港整備促進本部が設置される。地方港湾根室港および花咲港を根室港として一体化し、「根室港区」「花咲港区」と呼称する。重要港湾として指定される。
- 昭和59年 重要港湾根室港の本格着工に伴う修祓式が花咲岬で行われる。
- 昭和62年 関税法に基づく開港を、根室港区から花咲港区に指定変更する。
- 平成3年 戦後初めて水産物直輸入貨物船(ドブリノ号：ソ連船籍)が入港、活カニ11tを荷揚げする。
- 平成4年 北方四島交流事業が開始される。東地区大型岸壁完成記念式典が開催される。
- 平成5年 検疫法第3条の「検疫港」に指定される。
- 平成6年 北海道東方沖地震で甚大な被害を受ける。
- 平成10年 北方四島周辺水域での安全操業により、タコが初水揚される。
- 平成13年 開港以来、外国貿易船が入港1万隻に達する。
- 平成15年 北海道十勝沖地震で甚大な被害を受ける。
- 平成21年 南埠頭完成式典が開催される。